

学校の音環境に関するアンケート調査

その1 学校と近隣の状況

長野工業高等専門学校 学生会員 立石春貴
 長野工業高等専門学校 学生会員 折井愛美
 長野工業高等専門学校 正会員 西川嘉雄

1. はじめに

近年、騒音によるトラブルの例はテレビ等で取り上げられているものに止まらず、大小様々なトラブルが発生し社会現象となってきている。今まで一般的に好ましいという印象の公園や学校から発せられる子供の声などが騒音ととらえられ、近隣住民からの苦情の対象となっている¹⁾。今後、学校の立地計画に際して音環境を考慮して考える必要がある。

当研究室では学校の音環境の現状を把握するために調査を行っている²⁾。本研究では長野県内の3都市と関東・中部・関西の3都市の小中学校を対象に音環境に関するアンケート調査を行った。本報告では近隣の状況について報告を行う。

2. 調査方法

長野県内3市と名古屋市は全小中学校を、横浜市・大阪市は、ランダムに抽出した中学校80校、小学校150校を対象にアンケート調査を実施した。アンケート回収期間は約2週間とし、回収率向上のため期限延長のはがきを配布した³⁾。アンケート配布数・回答数と回収率を表-1に、アンケート項目を表-2に示す。

表-1 アンケート配布・回収状況

	長野市			松本市			上田市		
	配	回	率	配	回	率	配	回	率
小	56	36	64%	30	24	80%	25	12	48%
中	25	16	64%	21	15	71%	13	10	77%
	名古屋市			横浜市			大阪市		
	配布	回	率	配	回	率	配	回	率
小	263	50	19%	150	50	33%	150	61	41%
中	110	68	62%	80	41	51%	80	34	43%

*配：配布数、回：回答数、率：回収率

表-2 音環境に関するアンケート項目

項目	内容	項目数
I	学校について	4項目
II	学校生活について	6項目
III	学校の音環境について	3項目
IV	音環境に対する意識について	4項目
V	地域交流について	1項目
その他	自由記述・回答者について	

(大問5項目、付随する小問18項目、その他の全20項目)

3. 学校の概要

3-1 児童・生徒数

小中学校の学校数と児童・生徒数の関係を図-1に示す。地方都市の長野市は児童・生徒数100名以下の学校と600名以上の学校が多い。松本市・上田市はほぼ同程度で分布している。大都市の名古屋市・横浜市・大阪市では100名以下の学校は極めて少なく、300~700名にピークを持つ分布となっている。

3-2 所在地の地域区分

学校所在地の地域区分ごとの学校数を図-2に示す。地方都市の長野市・松本市・上田市の所在地域は1)住居地域、4)住居・商業混在、7)田園・郊外、8)山間が多い。長野県の小中学校の所在地域は住居地域に

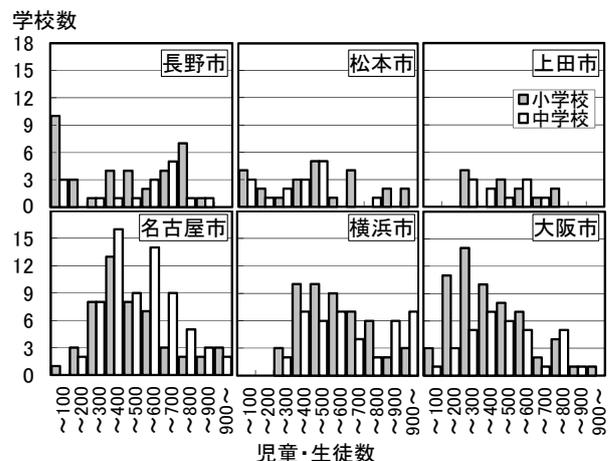


図-1 学校規模の比較：児童・生徒数と学校数

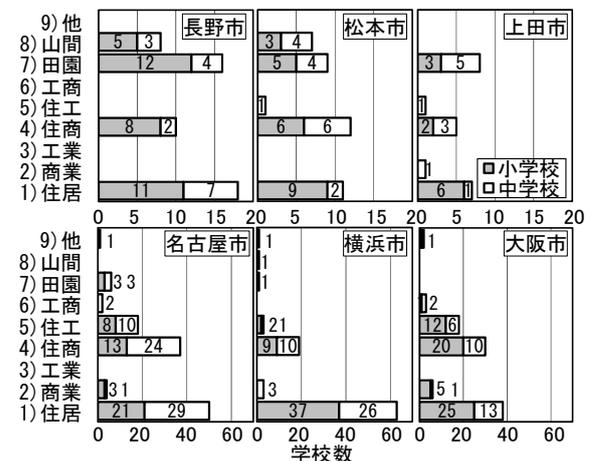


図-2 学校所在地の地域区分

加えて田園や山間地域が多いことが特徴である。大都市の名古屋市・横浜市・大阪市の所在地域は、1) 住居地域、4) 住居・商業混在、5) 住居・工業混在が多い。住居を含む地域が多いことが特徴である。

3-3 校舎

小中学校の校舎規模（階数）を図-3に示す。長野市・松本市・上田市の中学校では3階の学校が多く、上田市の小学校では2階の学校が多かった。3市ともに4階以上の学校は非常に少ない。それに対して大都市では、名古屋市と大阪市はすべて3階以上であり、横浜市は小中学校合わせて3校のみが2階建てでそれ以外はすべて3階以上である。横浜市・大阪市の学校は4階以上の割合が高い。大都市では校舎を高くすることで生徒数に対応していると推測される。

3-4 近隣の状況

図-4に学校周辺に近接している施設を整理したものを示す。回答は複数回答を可とした。地方都市と大都市で共通して多いのは幹線道路、個人・小型商店、住宅である。長野県の地方都市の特徴として田畑等が多いことがあげられる。これは県内の多くに山と田園が広がる長野県独特の地域性が現れている結果となった。一方、大都市では公園が多いことが特徴である。

4. 地域交流の状況

図-5に学校と周辺住民の交流状況の結果を示す。回答は複数回答を可とした。一般的に人口が密集した大都市では人間関係が希薄になりがちと考えられるが、地方都市・大都市に限らずどの地域でも学校では積極的に地域との交流が行われている結果が得られた。回答の多かったのは「挨拶」「行事への招待」「地域奉仕」「交流会」「その他」の順となった。地域住民の結びつきは些細なトラブルの未然防止につながると考えられ、学校と地域とのより良い関係は騒音問題の防止にも影響を与えると考えられる。

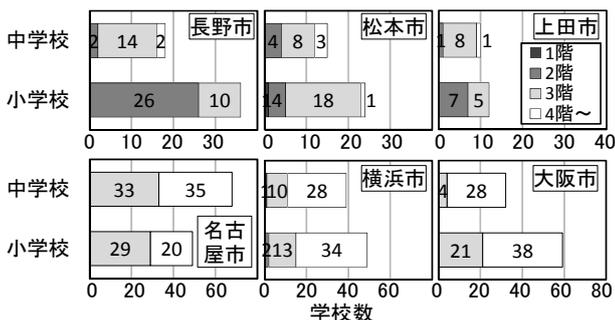


図-3 校舎規模の比較：階数

5. まとめ

生徒数において、名古屋市・横浜市・大阪市の大都市では300~700名程度の学校が占めた。長野県の地方都市では地域により異なる特徴を有した。所在地域の地域区分は長野県内の3市は大都市にはほとんどなかった田園・山間が多く長野県の地域性を表す結果となった。校舎の高さは大都市の校舎が主に3階以上であるのに対して長野県の地方都市は3階以下であった。周辺住民との交流は地方・大都市関係なく積極的に行われていた。アンケート調査により小中学校の概要と近隣の状況を把握することができた。

参考文献

- 1) 橋本典久, 苦情社会の騒音トラブル, 新曜社 (2012.5)
- 2) 西川嘉雄, 立石春貴, 倉橋彩百合, 小中学校の音環境に関する調査研究-長野市と名古屋市を例として-, 長野工業高等専門学校紀要第47号(2013)1-8
- 3) 日本建築学会編, 住まい街をつくるための調査のデザイン, オーム社 (2011.3)

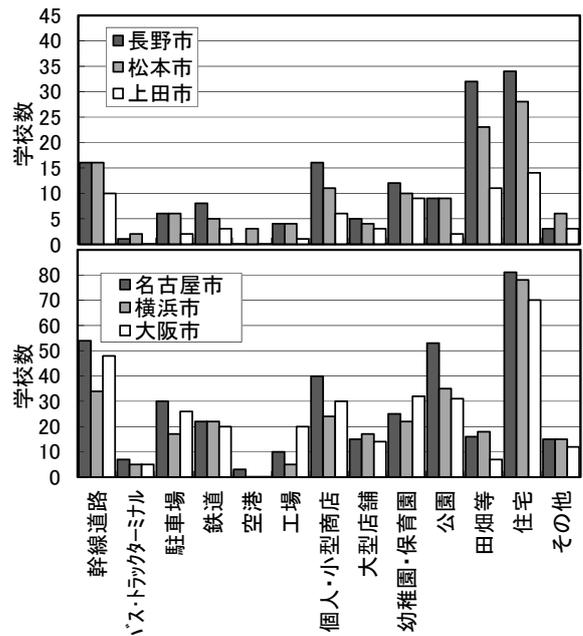


図-4 学校に近接している施設

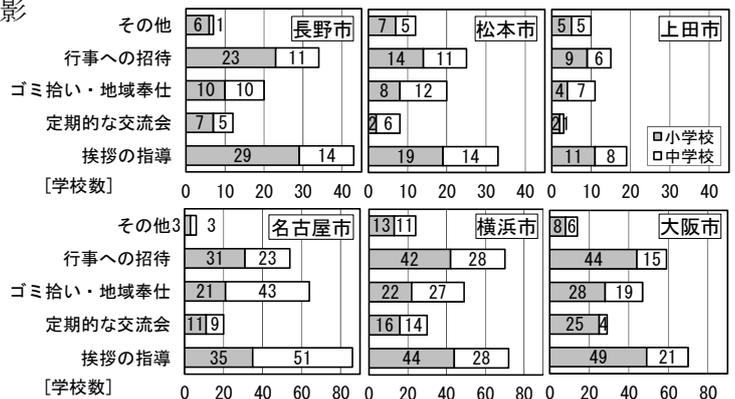


図-5 学校と周辺住民の交流